

<熊本支部例会事前抄録>

日時：2020年6月23日(火)19:30～

会場：ZOOM

- 一般講演抄録 2

全顎治療におけるプロビジョナルレストレーションフェーズの重要性について

三村彰吾 共愛歯科医院 〒861-2231 上益城郡益城町安永 722-4

■ 抄録

咬合崩壊をした患者に対し全顎治療を行うことがしばしばある。この場合、診査、診断、治療計画が重要であることは周知のことである。そして、プロビジョナルレストレーションのフェーズで最終的なチェックを行い、最終ゴールに向かう。

今回は、このプロビジョナルレストレーション時になかなか安定することができず苦勞した症例を発表させていただく。

患者は、41歳男性、初診日は2013年3月13日、主訴は奥歯を入れたいとのことであった。残存歯は上下前歯と上顎左側第一小白歯だけであった。診査診断後、インプラント治療、矯正治療を行い、プロビジョナルレストレーションのフェーズに入った。しかし、臼歯部の咬耗が激しく顎位の安定がなかなか得ることができず、マテリアルを変えてどうにか最終補綴物へと移行した。現在最終補綴装着後約5年が経過しているが問題はない。

症例に応じてはプロビジョナルレストレーションのマテリアルを考え、安定したのちに最終補綴物へ移行することが重要であると考え。

皆さんの忌憚のない意見を聞かせていただきたい。

この発表において利益相反はない。